

平成29年10月24日

保護者の皆様へ

大阪産業大学附属中学校

校長 今田 悟

2016年度 アンケート結果のご報告

秋冷の候、保護者の皆様にはますますご清祥のことと存じます。平素は本校教育活動に深いご理解とご支援をいただき、誠にありがとうございます。さて、学校教育法の改正に伴い学校評価が義務づけられるようになりました。本校では生徒に「授業を受ける態度と学習についての自己評価アンケート」「学校生活についてのアンケート」とともに、授業科目ごとの「授業アンケート」を実施しています。

2016年度のアンケート結果を踏まえて、その分析と今後の課題を明らかにします。

1. 「授業アンケート」の結果について

「授業アンケート」の結果は別表の通りです。アンケート結果については各教科担当の教員に担当クラスごとに結果を戻し、自身の授業内容についての「振り返り」の材料として、次年度の授業内容の改善に役立てるようにしています。

「授業は分かりやすいですか」の質問に、3年の生徒は70%以上の生徒が「分かりやすい」と回答し、「どちらかという、分かりやすい」まで含めると94%にのびります。3年生の肯定的な回答が高いのは、以下の理由が考えられます。3年生の2学期になり高校入試が迫り、入試への意識が高まると、生徒の日々の授業に対する取り組みの真剣さは高くなっていき、その分だけ学習に対する理解度は深まっていくということです。それ以外にも3年生の2学期から実施する特別講座も理由の一つとして考えられます。特別講座では高校入試に向けて、問題演習を繰り返し行います。そのなかで徐々に入試問題に慣れ、知識や解法を身につけていった生徒に「やれば、できる」という自信が芽生え、日々の授業にもこれまで以上に前向きに取り組んでいった結果、授業の理解度が深まったということです。

3年生は受験を控えた時期ということ考えると、肯定的な回答の数字が高くなるのは当然とも言えますが、同じ質問に2年生の71%、1年生も68%が「分かりやすい」と回答しており、「どちらかという、分かりやすい」の回答まで含めると、2年生89%、1年生は90%とやはり高い数字となっています。この理由としては「授業は、プリント教材や色チョークの板書など工夫されていますか」「授業は、生徒の疑問や質問にきちんと応えていますか」という質問に、2年生では75%の生徒が「工夫されている」「疑問や質問にきちんと応えている」と回答しており、教員の授業に対する周到な準備、授業中の生徒に向き合う姿勢が「授業の分かりやすさ」につながっていると評価したと言えそうです。ちなみに「どちらかという、工夫されている」「どちらかという、疑問や質問にきちんと応えている」まで含めると各学年とも回答の数字はほぼ90%となっています。

「授業は、生徒が先生の問いに答えたり発表したりするなど参加しやすいものですか」の質問に2年生・3年生の約70%の生徒が「参加しやすい」と回答し、「どちらかという、参加しやすい」まで含めると各学年約90%となっています。本校は各学年とも1クラス約20名と少人数で構成されており、

教員が生徒に積極的に関わりやすい環境となっており、それがこの回答に反映されたと言えそうです。同じく、「授業は、先生と生徒の心が触れ合うものとなっていますか」の質問に対する回答も同じ傾向が見てとれます。「授業を受けて、この教科・科目について興味・関心が深まったと思いますか」「授業を受けて、学力が身についたと思いますか」の質問に対しても、先の質問の回答ほどではありませんが、生徒は高い評価をしています。

「授業のルールを守るように先生は注意していますか」「先生は、授業時間を守っていますか」の質問に対する「いつも注意している」「守っている」の回答は当然のこととは言え、質問の中で最も高い数字となっています。

ただ、「この教科の勉強を日常していますか」の質問に、「毎日している」「ときどきしている」の回答の数字は物足りない数字となっています。中学1・2年生の間は精神的に幼く、自分で学習の仕方、習慣、ペースをつかめないとこころがあり、生徒に毎日の学習習慣を身につけさせることが課題と言えます。

2. 「授業を受ける態度と学習についての自己評価アンケート」の結果について

「チャイムが鳴ったら席に着く」の質問に対し、「守っている」という回答の数字は決して高くありません。本校は小規模校であるため、教員は学年・クラスの枠を越えて、予鈴が鳴ると各クラスに着席の声かけをしにいきます。生徒はその時、教員から着席を促されるため、時間を「守っている」と感じられないかもしれません。「制服をきちんと着用し、姿勢を正して授業を受けている」の質問に対する回答も、「守っている」と回答した生徒の比率が高くないのは、同じ理由からだと考えられます。

「チャイムが鳴ってからトイレや忘れ物を借りに行かない」「教科書、ノート、教材を机の上に出している」「授業に関係のないものを机の上に置かない」の質問には、「守っている」「だいたい守っている」と回答した生徒は約90%と高い数字になっています。

「授業に積極的に参加している」の質問に対する肯定的な回答の数字はさらに跳ね上がり、95%以上に達します。やはり中学は1クラスの人数が少ないため、教員が必然的に生徒にどんどん発問し、生徒に発言する機会を与えやすいという環境が大きく関係していると思われます。

「宿題や課題があればきちんと取り組んでいる」の質問には、「きちんと取り組んでいる」「だいたい取り組んでいる」の回答は91%となっています。その数字を反映し、「1日に家庭学習をどの位していますか」の質問で「ほとんどしない」と回答した生徒は少ないですが、欲を言えば家庭での学習時間をもう少し確保して、学習内容の定着を図ってほしいと思います。

3. 「学校生活についてのアンケート」の結果について

「この学校の生徒は、挨拶をきちんとしている」という質問に、「よくあてはまる」「ややあてはまる」と90%の生徒が回答しています。本校では毎朝登校時、各クラス風紀委員が輪番で、登校する生徒に挨拶の声をかけていく「あいさつ運動」を行っており、この数字の高さは運動の成果を示していると言えそうです。

「この学校は、いじめを許さないようにしっかり取り組んでいる」「この学校の先生は、生徒指導にしっかり取り組んでいる」「この学校の生徒指導は、適切であると思う」という教員の指導に対する質問に対しては、肯定的な回答への数字の高さが目をひきます。中学生はその精神的未熟さゆえ、相手に不快感を与える言葉を深く考えずに発したり、自分が気に入らないと衝動的な行動に訴えたりするところがあ

ります。たとえ些細だと思われる生徒の言動でも、教員が見逃さず指導し対処することによって、自覚なく相手を傷つけた生徒には「自分の言動の何が問題であったのか」ということを早く気づかせてやることができ、その後の生徒の成長につなげることができることとなります。本校では生徒のちょっとした気になる言動には、早めの指導を行うように心がけています。生徒はそうした指導を高く評価していると思います。

以上、各種アンケートの分析結果を報告しました。本校は小規模校ならではの利点として、教員が生徒一人ひとりに細かい気配りがしやすい、丁寧で行き届いた指導がしやすい、などの点があげられます。例えば、授業に関するアンケート結果で「授業に参加しやすい」「授業に積極的に参加している」と肯定的な回答が多かったのは、クラス人数が少ないゆえ、教員が生徒の参加しやすい雰囲気をつくりやすいということがあげられます。また、家庭学習に関するアンケート結果で「きちんと取り組んでいる」という回答が多かったのは、教員が生徒一人ひとりの課題をしっかりとチェックし、課題を最後までしっかりやり遂げさせる指導をしているのが理由として考えられます。

他の質問でも回答は同じような傾向にあります。本校ではクラス人数が少ないため、ついつい手をかけすぎてしまっているかもしれません。生徒が学習習慣や学校生活に対する自主性・積極性を身につけるまでは、教員が生徒を望ましい方向に導いてやる必要があると思いますが、いずれ生徒には教師の手を離れ、自立してもらわなければなりません。これからますます複雑、多様化する社会の中で、主体的に判断できる生徒の育成をめざしたいと思います。